あおぞら

Vol. 89
2023.9月号
Denenchofu Chuo Hospital
田園調布中央病院広報誌

TOPICS：麻しん・風しんと予防接種について

２０２３年4月以降、国内各地より麻しん患者が相次いで確認されています。時折ニュース等で取り上げられていることから、気にかかっている方も多いのではないでしょうか。今月号では、麻しんと風しんについて、それらに有効な対策である、麻しんワクチン、風しんワクチン、麻しん風しん混合ワクチン（以下MRワクチン）についてお話していきます。

▶麻しん（はしか）とは

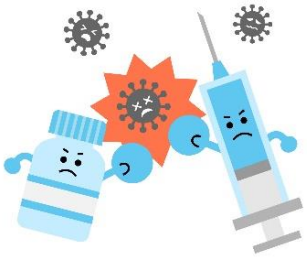
麻しんとは、麻疹ウィルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症であり、空気感染（飛沫核感染）、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示します。感染力はきわめて強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいた場合、12～14人の人が感染するとされています。免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100％発症し一生免疫が持続するとされます。ヒトの体内に入った麻疹ウィルスは、免疫を担う全身のリンパ組織を中心に増殖し一過性に強い免疫機能抑制状態を生じるため、麻疹ウィルスそのものによるものだけでなく、合併した別の細菌やウィルス等による感染症が重症化するリスクもあります。

今年の麻しん発生数は昨年の年間発生数を上回っています！

2015年3月27日、世界保健機関西太平洋事務局は、日本、カンボジア、ブルネイの3か国を、新に麻しん排除国と認定しました。これにより、既に認定されているオーストラリア、マカオ、モンゴル、韓国の4か国と合わせ、西太平洋地域における麻しん排除国は7か国となりました。とはいえ、麻しんの患者発生が全くなくなったということではなく、海外からの持ち込みによる麻しんの発生が報告されています。昨今、新型コロナウィルス感染症により制限されてきた国際的な人の往来が、徐々に増加しつつあります。麻しんに罹患した人が公共交通機関等を利用することで、国内での広域的な麻しん患者発生も懸念されています。実際に、今年の麻しん発生数は23例と、すでに2021年、2022年の年間発生数を上回っています。（2023年第27週時点での集計）

麻しんは空気感染するので、手洗い、マスクのみでは予防はできません。予防接種が最も有効な予防法といえます。2000年4月2日以降に生まれた方は、定期接種として2回のワクチン接種を受ける機会がありましたが、それ以前に生まれた方は、定期接種の機会が1回であったか、定期接種の機会がなかった方となります。

麻しんに罹ったことがなく、なおかつ2回の予防接種を受ける機会がなかった方は、予防接種についてかかりつけ医にご相談ください。特に感染リスクが高い方、麻しんが流行している国に渡航する方は、予防接種をご検討ください。なお、麻しんワクチンの代わりにMRワクチンを接種しても差し支えありません。



出典：厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-senshou/measles/index.html
国立感染症研究所 https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/518-measles.html
https://www.niid.go.jp/niid//images/idsc/disease/measles/2023pdf/meas23-27.pdf
神奈川県衛生研究所 https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/alert_ippan_20230525.pdfhttps://www.pref.kanagawa.jp/sys/eiken/005_databox/0504_jouhou/0601_eiken_news/files/eiken_news171.htm

▶風しん（三日はしか）とは

風しんは、風疹ウィルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。感染経路は飛沫感染で、風しんへの免疫がない集団において、1人の風しん患者から5～7人にうつる強い感染力を有します。症状は不顕性感染（無症状）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合は、小児よりも重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあります。また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんに罹患すると、胎児が先天性風しん症候群となるリスクが生じます。予防接種が最も有効な予防方法です。予防接種法では、2回の定期接種を受けていただくことを目標としています。過去の風しんの罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合は、予防接種について医師にご相談ください。なお、風しんワクチンの代わりにMRワクチンを接種しても差し支えありません。

出典：厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index.html

麻しんワクチン、風しんワクチン、MRワクチンの接種の考え方

ワクチン1回接種で95%、2回接種で99%の人が麻疹ウィルス、風疹ウィルスに対する免疫を獲得することができるとされます。先ずご自身がワクチンを打つ必要があるか知りましょう。

接種する必要のない方

- 1歳以上で2回の麻しん、風しんワクチンの接種記録※がある方
- 検査診断された麻しん、風しんの罹患歴がある方
- すでに発症予防に十分な麻疹、風疹抗体価を保有している方（次のページをご参照ください）

上記以外の方は、麻しんワクチン、風しんワクチンの接種が推奨されます。ただし、接種不適合者に該当する場合は接種をすることはできません。（次のページをご参照ください）

早期の麻しん及び風しんワクチン接種が推奨される方（一部抜粋）

- 定期接種対象者（第1期：1歳児、第2期：今年度6歳になる者）
- 1か月以内に海外旅行・国内旅行を予定している者（可能な限り2週間以上前に接種を済ませる）
- 医療関係者（救急隊員、事務職員等を含む）
- 保育、教育関係者
- 不特定多数の人と接触する職業に従事する者
- 0歳児の家族
- （麻疹、風疹抗体価陰性あるいは低抗体価の）妊婦の家族
- （麻疹、風疹抗体価陰性あるいは低抗体価の）ワクチン接種不適合者の家族
- 小、中、高、大学、専門学生等で、ワクチン未接種あるいは1回接種あるいは接種歴不明者

※接種歴は母子手帳・証明書などの記録で確認し、**接種の記録がなければ未接種**として扱います

麻しんワクチン、風しんワクチン、MRワクチンの接種不適合者とは

- 明らかな発熱を呈している者（※1）
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- 本剤の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな者（※２）
- 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する者および免疫抑制をきたす治療を受けている者
- 妊娠していることが明らかな者
- 上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

（※１）明らかな発熱とは通常37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合でも平常時の体温を勘案して発熱と判断される場合があります。

（※２）アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下等、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状。

出典：国立感染症研究所 https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/MRvaccine_20180417.pdf

抗体価と予防接種

医療従事者における麻疹抗体価と必要予防接種回数について

※医療従事者でなくても参考にすることができます

必要予防接種回数	抗体価		
	PA法	EIA法（IgG）	中和法
あと2回の予防接種が必要	**16倍未満**	**2.0未満**	**4倍未満**
あと1回の予防接種が必要	16倍、32倍、64倍、128倍	2.0以上16.0未満	4倍
今すぐの予防接種は不要	256倍以上	16.0以上	8倍以上

出典：日本環境感染学会「医療従事者のためのワクチンガイドライン第3版」http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/vaccine-guideline_03-5.pdf

抗体価		妊娠を希望する女性、十分な免疫を保有していない妊婦の同居者など、より確実に予防を行う必要がある方	左記の方以外
HI法（赤血球凝集抑制法）	EIA法（酵素抗体法）		
8倍未満	**陰性または判定保留**	**免疫を保有していないため風しん含有ワクチンの接種を推奨します。**	
8倍、16倍	陽性（EIA価8.0未満または国際単位①30IU/mL未満、国際単位②45IU/mL未満）（※）	過去の感染や予防接種により風しんの免疫はありますが、風しんの感染予防には不十分です。そのため、感染によりお腹の赤ちゃんなどへ影響が生じる可能性があります。確実な予防のため、風しん含有ワクチンの接種を推奨します。	過去の感染や予防接種により風しん免疫があり、風しんの発症や重症化を予防できると考えられます。確実な予防のため、風しん含有ワクチンの接種を希望される方は、かかりつけ医等と接種についてよく御相談してください。
32倍以上	陽性（EIA価8.0以上または国際単位①30IU/mL以上、国際単位②45IU/mL以上）（※）	風しんの感染予防に十分な免疫を保有していると考えられます。風しん含有ワクチンの接種は基本的には必要ありません。	

（※）測定キットの違いにより3種の判定基準があります

出典：厚生労働省「予防接種が推奨される風しん抗体価について」
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/dl/140425_1.pdf

JOB FAIR

TODA MEDICARECARE GROUP
東京エリア合同

医療従事者就職説明会ご案内

日時：2023年9月30日（土曜日）午後14:00～16:00
会場：蒲田第二美須ビル 4階
募集職種：看護師・准看護師
介護職員・ケアサポーター・調理従事者
事務職（地域医療連携室、医事課、経理課）

戸田中央メディカルケアグループ東京エリアに所属する７施設合同の就職説明会を開催いたします。
ブランクがあっても大丈夫です！ライフスタイルに合った場所やご自身のキャリアに適した病院や施設で理想の働き方を表現しませんか？実施経験で勉強ができ、資格が活かせます！詳しくは特設サイトをご覧ください。

就職説明会の詳しい内容はコチラ！
合同就職説明会特設サイト

参加病院・施設（戸田中央メディカルケアグループ所属）
田園調布中央病院・大田池上病院・奥沢病院・世田谷神経内科病院
時正会透析クリニック・ハートフル川崎病院・carna五反田

＼担当より／

病院や施設の雰囲気など直接聞ける絶好の機会です！資料だけではわからない情報を得られるので、ご自身のキャリアと照らし合わせてご参考いただけます。参加無料・服装自由・履歴書不要でご参加いただけます。もちろん！お子様連れでの参加も大歓迎です！！特設サイトよりご予約いただけると当日は効率良くブースを回れます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

▶Information

大腿骨近位部骨折センターを開設しました

8月1日に大腿骨近位部骨折を対象とするセンターを開設いたしました。早期治療を行うために、内科医師、外科医師、麻酔科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど、病院全体で協力体制を築き対応いたします。手術は熟練の技術を持った整形外科医が行います。30～40分で手術が完了するため、患者さまのご負担も少なく、早期にリハビリを開始することができます。

大腿骨近位部骨折に関するご相談は田園調布中央病院へ！

TEL 03-3721-7121

大腿骨近位部骨折センターの詳しい内容はコチラ！

医療法人社団七仁会
田園調布中央病院広報委員会
〒145-0071 東京都大田区田園調布2-43-1
http://denenchofu-hp.jp/ TEL.03-3721-7121（代表）